



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.20

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社アップハウス 横浜事業部 統括

神野 貴寛 様

軟弱な地盤や地盤沈下で傾いた建物を水平に戻す工事を行っているアップハウス。ハウスメーカーや不動産の仲介業者、個人からの依頼もあるそうです。この仕事をする上での喜びやご苦労、心がけていることなどを伺いました。

■傾いた家を水平に戻す

— どのようなお仕事をしているのですか？

基本的には、傾いた家を水平に戻す仕事です。一般の住宅をメインでやらせてもらっています。依頼があれば、日本全国どこにでもうかがいます。

具体的な作業としては、まず家の外から侵入口を作ります。人間が1人入っていけるよう60cm×90cm程度の穴を縦に1メートル50cm位掘ります。アリの巣をイメージしてもらうのが一番わかりやすいと思いますが、そこから基礎の下に入り、行き、横穴を掘って、杭を打ち込んでいきます。

杭の長さは地域・地盤によって違うのですが、何十メートル打つ場合もあれば、

それほど打たなくても良い場合もあります。家を1軒仕上げるのに最低でも2週間、最大では1か月かかります。

— いつ頃から、この仕事をやり始めたのですか？

ピーエルピー・ソリューションズという会社を設立し、アップハウスのフランチャイズとしてやり始めたのは、平成19年です。

その3年位前は、補償コンサルタントという仕事をしていました。これは公共や民間の工事で、道路を掘ったり、解体の作業をすることによって周りの建物に被害—例えば、家が傾いたり、家に亀裂が入ったり—することがあります。それを補償する仕事です。

工事前と工事後に、建物の中・外にある

柱の傾きや床の水平具合、壁の状態等を調べ、そこに工事の影響が出ていれば、その建物を直すためにいくらかかるか積算し、お客様と交渉します。被害が出たお客様はお金が欲しい。工事を行った会社や役所はお金を抑えたい。その中でよく板挟みになっていました。

補償コンサルタントの仕事はアルバイト



支持杭圧入工法



軟弱な地盤や地盤沈下などで 傾いた建物を直します

から始めたのですが、社員になって2~3年たった時に、会社の経営状況があまり良くないこともあって、独立を勧められました。この仕事の経験から得た知識を活かしつつ、今度は実際に自分で直す仕事をしてみたいと思ったのです。

■自分の家を上げるつもりで工事

——実際やってみていかがでしたか？

体力的にきつかったです。穴を掘って、その土を土嚢袋に入れて出すのですが、初めは腕の筋肉痛が激しくて。仕事が終わって家に帰り、夕飯を食べようとすると、箸を持つ手が震えました。

最も大変だったのは、土に埋まりそうになったことです。穴の中において上から土が流れてくると、少ない量でも重たいため、息が止まるんです。「もうだめかな」と思ったことが3~4回ありました。

その時は仲間に助けを求めますが、お互いに穴を掘っているのです、すぐ近くにいないこともあります。そういった意味では、命がけの仕事だと思います。

——そうした体験をして、やめようと思ったことはないのですか？

やめようと思ったことはありません。基本的に、体を動かす仕事が好きなんです。それに、前の補償コンサルタントの仕事は心がギスギスすることも多かったのですが、今の仕事はお客様が喜んで

くださいます。「ありがとう」と伝えてくださったり、工事に入る前は表情が暗かった奥様が明るくなったり。そこに、仕事の醍醐味があります。

——このお仕事をやる上で心がけていることは何ですか？

自分の家を上げるつもりで工事をしています。自分の家だったら手を抜かないし、妥協もしないですね。

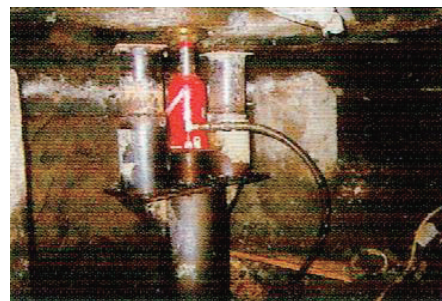
家が傾いていることに気付かず、傾いている側に頭を向けて寝ていると、頭に血が上って体に良くないケースがあります。

家の中にいると小走りになってしまったり、お鍋をした時に水面が水平にならないことで、家が傾いていると気づく方もいます。まずは、ビー玉などの球を転がしてみてください。その時におかしいと思ったら、ぜひご連絡ください。調査と見積もりは、日本全国どこでも無料です。

——これからやってみたいことがあれば、聞かせていただけますか？

今の仕事は体力勝負なので、将来的にはまったく違うこともやってみたいです。例えば、飲食関連のお店を出す

とか。お酒が好きなので、自分が飲んでしまうバーなどのお店はダメですね(笑)。今、探している最中ですが、3足のわらじは欲しいなと思っています。今の仕事を大事にしながら、自分の可能性を広げていきたいと思っています。



油圧ジャッキ取り付け作業

<インタビューを終えて>

地方へ仕事に行く時はしばらく家をあけるので、お子さんたちから「お父さんがいなくてさみしい」と言われるという神野さん。「いつまでも車と一緒に出かけられる家族を目指している」と笑う姿がとてもステキでした。

株式会社アップハウス 横浜事業部

〒233-0006
神奈川県横浜市港南区芹が谷5-32-7
URL: <http://www.uphouse.biz/>